

### **守護者を擁する二階建ての門**

すべての仏教寺院は、南北を軸として建立されます。正門は境内の南端に設置されます。入母屋造りの楼門（二階建ての門）は、寺院に入る南の入り口になります。1596年に地元の大名であった毛利輝元が最初に建設し、1767年に毛利一族である毛利重就によって完全に再建されました。門は本堂よりも10年または20年古いものです。

門の両側には、筋骨隆々でお寺や仏教を守る仏法の守護者が2体立っています。守護者は仁王または金剛力士（屈強な力士）として知られています。室町時代（1336年～1573年）に作られたもので、門の内側には豊穰を促すための稲穂や野菜の彫刻が施されています。現在の門は1911年に1度修復され、その後1956年に解体修理を行い、復旧、再建されました。